
秋田県における献腎移植希望登録状況

土方仁美
(財)秋田県臓器移植推進協会

Current registration state of recipients for cadaver kidney transplantation in Akita

Hitomi Hijikata
Akita Organ Transplant Promoting Society

現在、国内で献腎移植を受ける場合、日本臓器移植ネットワークへの献腎移植希望登録が必要である。平成11年10月31日現在、東北では888人の透析患者が登録を済ませている。東北6県中登録者の最も多い県は宮城県221人、当県は最も少なく100人である。しかし当県の透析患者に対する登録者の割合は7.2%であり、宮城県7.3%とほぼ同率の登録状況である。

県内在住登録者の年齢性別は、40代男性が最も多く30～50代が全体の82%を占めている(図1)。この登録者の待機年数別で最も多いのは1年未満者16人であるが、最長18年の待機期間を有する登録者がいる厳しい現状でもあり、県内登録者の45%は全国平均待機期間である6年4ヶ月¹⁾を上回っていた(図2)。この登録者は現在県内23施設(表1)において透析療法を受けながら待機しており、献腎移植実施を希望する施設は仙台社会保険病院57人、秋田大学36人、中通総合病院4人、岩手医科大学、東北大学、鷹揚郷腎研究所弘前病院が各1人である。県内での移植実施を希望する新規登録者の増加と県外から県内への移植施設変更希望者の増加により、県内での移植実施希望者は40%となった。

登録者の血液型に着目してみると、A型33人、O型32人、B型21人、AB型14人とばらつきが見られたものの、全国における腎提供者の血液型もA型34人、O型34人、B型21人、AB型5人²⁾と同傾向を示していたことから、当県においては血液型別により移植を受ける機会の確率に大きな差はないようであることが分かった。

東北ブロック内で腎提供者が発生した場合、同ブロックセンターにより選定された上位腎移植候補者に対する移植を受けるかどうかの確認が緊急に行われている。その際、体調不良でやむを得ず辞退した人や血液交叉試験陽性で適応外となってしまった人、どうしても連絡が付かないなどの理由により、最終的に○印の候補者が献腎移植を受けることとなった(表2)。

いつ腎提供者が発生するか予測できないという献腎移植医療の特性から、腎移植候補者への連絡も突然入ることやいつでも家族等と連絡が取れるよう所在や連絡方法を確認しておくことに対する登録者の意識の保持が重要であると思われた。また登録するかどうか迷われている患者に対し、意思決定するために必要な情報を得られるよう支援する必要性があると思われた。

図1 年齢性別

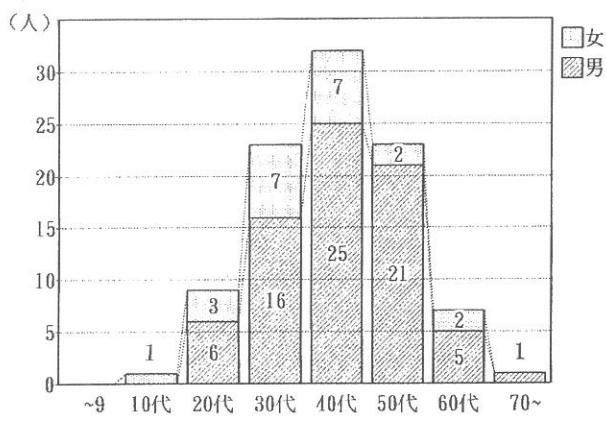


図2 待機期間別

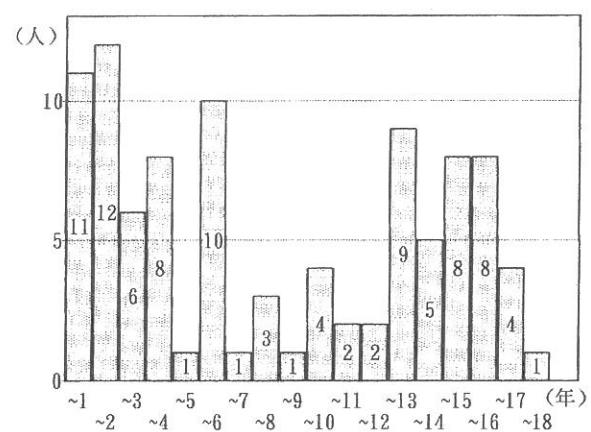


表1 透析施設別

県北	8 施設 (16)	工藤泌(7) ミナト(2) 秋田社保(2) 北秋中央(1) 小松(1) 秋田労災(1) 山本組合(1) 大館市立(1)
中央	9 施設 (43)	中通(12) 秋田組合(9) 赤十字(6) 石田(5) 秋田大学(3) 清和(3)
県南	6 施設 (41)	市立秋田(2) 由利組合(2) 秋田泌(1) 平鹿総合(9) 公立横手(8) 松田泌(8) 仙北組合(8) 雄勝中央(5) 花園(2)

() : 人

表2 脾移植候補者選定

順位	症例1	症例2	症例3	症例4	症例5
1	福島	岩手	○青森		
2	宮城	○福島	宮城	○	
3	○山形	○宮城	○福島	○	○
4	宮城	福島	秋田	秋田	○秋田
5	○宮城	秋田	青森		

○ : 移植者

引用文献

- 1) 社団法人日本臓器移植ネットワーク中国四国ブロックセンター：(社)日本臓器移植ネットワーク発足後4年間の臓器提供・移植報告、三本の矢、No. 7 : 14-15、1999
- 2) 社団法人日本臓器移植ネットワーク広報委員会：平成8年度の献腎移植統計、Japan Organ Transplant Network News Letter、No. 4 : 4-5、1998